

# 国土交通省説明資料

---

平成31年2月

# 海洋環境整備事業～閉鎖性海域における浮遊ごみや油の回収～

## 海洋環境整備船の概要

- 船舶航行の安全を確保し、海域環境の保全を図るため、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明・八代海の閉鎖性海域（港湾区域、漁港区域を除く）において、海面に漂流する流木等のごみや船舶等から流出した油の回収を行っており、現在、これらの海域に12隻の海洋環境整備船を配備しています。

## 海洋環境整備船の配備



## 浮流油の回収

### 放水による浮流油の拡散



放水拡散するDr海洋、クリーンはりま

### 吸着マットによる油回収



吸着マットにより油を吸着

## 漂流ごみの回収

### 回収装置による回収



漂流ごみを双胴部で跨ぐように航行

### 潮目に集積する漂流ごみ

### 多関節クレーンによる回収



漂流物 回収状況

# 直轄河川におけるごみ問題への取り組み

## 1. 河川管理

- 河川管理上必要な流木・ごみの回収
- 河川巡視、監視カメラや不法投棄防止の看板設置



## 2. 連携体制の強化

- 全ての一級河川に設置されている「水質汚濁防止連絡協議会(※)」等を活用し、不法投棄発見時の連絡体制を確認 ※ 河川管理者、自治体、利水者等から構成される
- 関係機関による合同パトロールを実施



## 3. 普及・啓発の推進

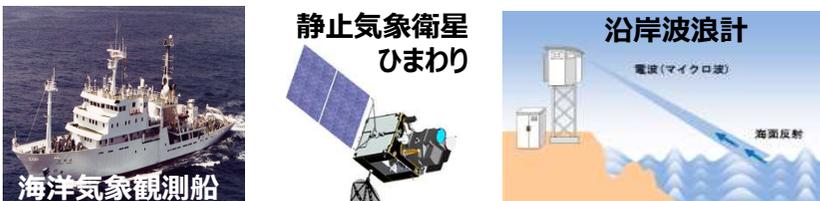
- 不法投棄の防止に向けた啓発活動を推進
  - ごみマップの作成
  - 住民と連携した清掃活動、河川ごみ調査
  - 職員による学校への出前講座 等



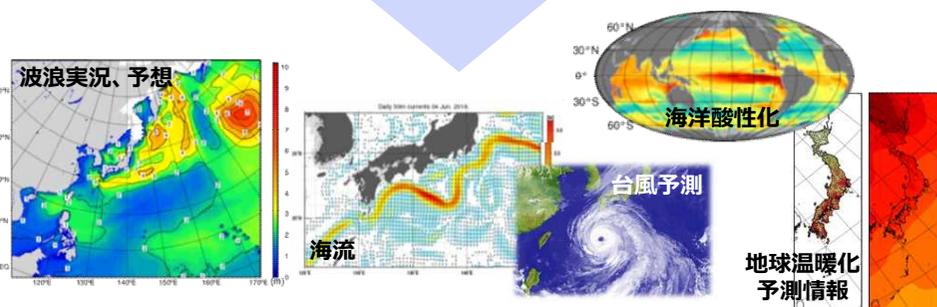
# 気象庁における海洋観測と海面の浮遊汚染物質に関する取組

## 気象庁における海洋観測

海洋気象観測船、静止気象衛星ひまわり、アルゴフロート・漂流ブイ、沿岸波浪計・潮位計等による海洋観測を実施



様々な観測データをもとに、海洋由来の自然災害の防止、海上安全、気象・気候や地球温暖化の予測等に資する情報を提供



### 海洋気象観測船による海洋観測

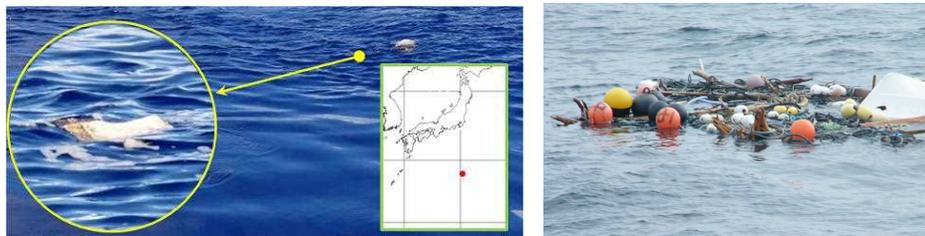


- <主な観測項目>
- 水温、塩分
  - 海流（流向、流速）
  - 海水中、大気中の二酸化炭素濃度
  - 海洋酸性度（pH）、溶存酸素量
  - 海洋バックグラウンド汚染観測

- 海洋汚染防止法に基づき、海洋汚染の防止及び海洋環境の保全に資することを目的として実施
- 海水中の重金属、油分、浮遊汚染物質等を観測

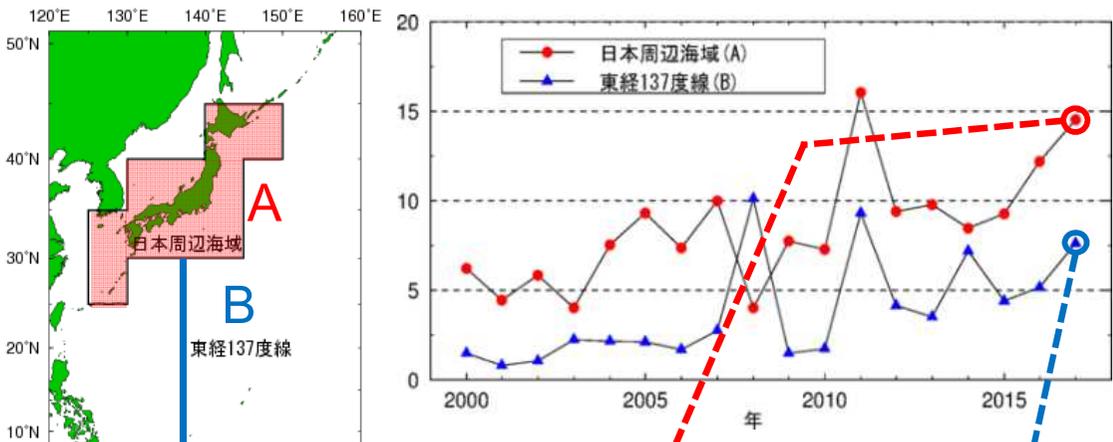
## 浮遊汚染物質の目視観測

海洋気象観測船の航走中、海面に浮かぶプラスチック等の浮遊汚染物質の個数を船橋から目視で観測

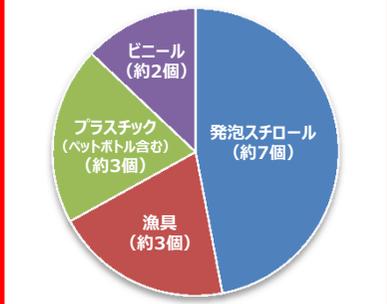


浮遊物の例：プラスチック製バケツ

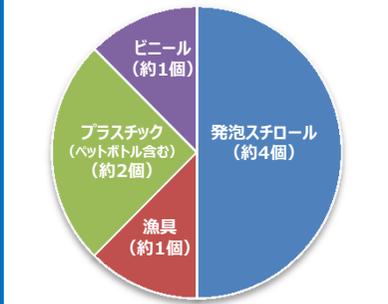
浮遊物の例：漁具等



日本周辺海域 (A) 2017年  
 ・観測航走距離：約3700km  
 ・航走100kmあたりの発見個数：約15個



東経137度線 (B) 2017年  
 ・観測航走距離：約16700km  
 ・航走100kmあたりの発見個数：約8個



## ■ 海洋環境保全のための指導・啓発

海洋環境保全のため「未来に残そう青い海」をスローガンに掲げ、若年層を含む一般市民を対象とした海洋環境保全教室の開催、海事・漁業関係者及びマリンレジャー愛好者を対象とした訪船指導等による指導・啓発、「海と日本プロジェクト」(日本財団等主催)と連携したプラスチックごみ等の回収を行う海浜清掃活動に取り組んでいる。

### 海洋環境保全教室の開催

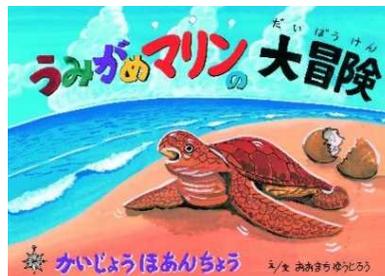
- ・若年層を含む一般市民を対象に、プラスチックごみが海洋環境に与える影響等について啓発を実施



小学生に対する海洋環境保全教室



幼稚園児に対する環境紙芝居の上演



### 訪船・訪問指導

- ・漁船やマリンレジャー愛好家等へ、プラスチックごみの発生抑制等についての啓発を実施



漁船への訪船指導



つり人に対する不法投棄防止の指導

### 「海と日本プロジェクト」と連携した海浜清掃活動等

- ・全国規模での展開、小学生・幼稚園児・保護者・一般市民等の参加による海浜等のプラスチックごみ等を回収

→身近なプラスチックがごみとなり海洋汚染に結びつく現状を  
ごみ分類調査を通じて体感

#### 【今後の取組み】

「海ごみゼロウィーク」(環境省・日本財団共同事業) 一斉清掃への協力



小学生との海浜清掃



ごみ分類調査